信濃毎日新聞
1873年（明治6年）創刊
夕刊
発行所
信濃毎日新聞社
長野本社　〒380-8546
長野市南県町　657番地
電話(026)
受付236-3000　編集236-3111
販売236-3310　広告236-3333
松本本社　〒399-8711
松本市宮田　2番10号
電話(0263)　編集25-2151
販売・広告・事業25-2153
©信濃毎日新聞社2014年

福祉タクシーのご利用をお待ちしております
やさしさと真心でお出掛けをサポートいたします。お気軽にお電話ください。
松代タクシー㈱
本社 ☎026-278-3535
配車センター
☎026-278-7000

信毎ホームページ
www.shinmai.co.jp
読者センター
026-236-3215
編集応答室
026-236-3111
購読申し込み
0120-81-4341

被爆後の広島 市民に希望の灯

爆心地の聖歌 再現へ

12月に本番 世代つなぐ接点に

広島流川教会での音楽礼拝の再現に向け、メサイアの練習をする人たち＝13日、広島市中区

「『ハレルヤコーラス』の出だしのところ。自分でも不思議ですが、救われた気持ちになるというかね」。7月中旬。広島市の元教諭、永柴義昭さん(85)はメロディーを口ずさみ、戦後間もなく、聖歌隊でヘンデルの「メサイア」の練習に励んだころを振り返った。

被爆2年後の1947年12月24日、爆心地付近の広島流川教会で開いた「クリスマス音楽礼拝」。焼け跡に希望の灯をともしたこの礼拝を、被爆70年を前にした今年12月、移築した教会で「再現」する取り組みが進んでいる。

◇　◇

メサイアは、キリストの生誕、受難と復活を描いたオラトリオ（聖譚曲）だ。原爆による破壊と、復興へ寄せる思いが重なり合うような曲。当時、吹きさらしの教会から漏れる練習の歌声に引かれ、通り掛かりの市民も集まってきたという。

「希望のようなものが湧いてきた」。空腹も忘れ練習に熱中したという永柴さん。聖歌隊を指揮した故太田司朗氏は、長男を原爆で焼かれ変わり果てた最期をみとった。

原爆投下後の焼け野原に立つ広島流川教会＝1945年9月ごろ（川原四儀氏撮影、広島平和記念資料館提供）

永柴さんはある日、太田氏が「原爆で燃えたぎるように渦巻く赤い空」の下にある教会の絵を描いていたのを見たと話す。市民に希望を広げた聖歌の指導に励む一方、癒えぬ傷を抱えた「心の底」を語ることはなかったという。

広島が世界平和のために払った大きな犠牲を無にしてはならない―。こんな祈りから始まった音楽礼拝には約100人が参加。NHKもラジオで生中継したが、関係者の高齢化は進み証言集めは難航、ラジオを聞いた人も見つかっていない。

◇　◇

再現に取り組む「ヒロシマと音楽」委員会の光平有希さん(32)は当時をたどるのは「日に日に難しくなっていく」と話す。

ただ、12月13日の本番までほぼ毎週続く練習は被爆者や若い世代をつなぐ接点になっている。「人生最後の合唱かも」「本番は最後まで立っていられない」。7月中旬の日曜日。中学生も含め約30人での練習中、高齢者らの〝弱音〟が若者らの笑顔を誘っていた。

アルト担当の三戸和子さん(76)は47年ごろ、母や祖母と買い物に来た広島駅前の闇市から港まで一面の焼け野原だったのを覚えていると話す。「あのころ歌っていた人たちには想像を絶する思いがあったと思います」

自らも7歳の時に被爆。再び戦争に突き進むかのように見える内外の情勢に不安が募る。「子や孫を絶対同じ目に遭わせたくない。その思いを伝えたい。ろうそくに火をともすような気持ちで歌っています」

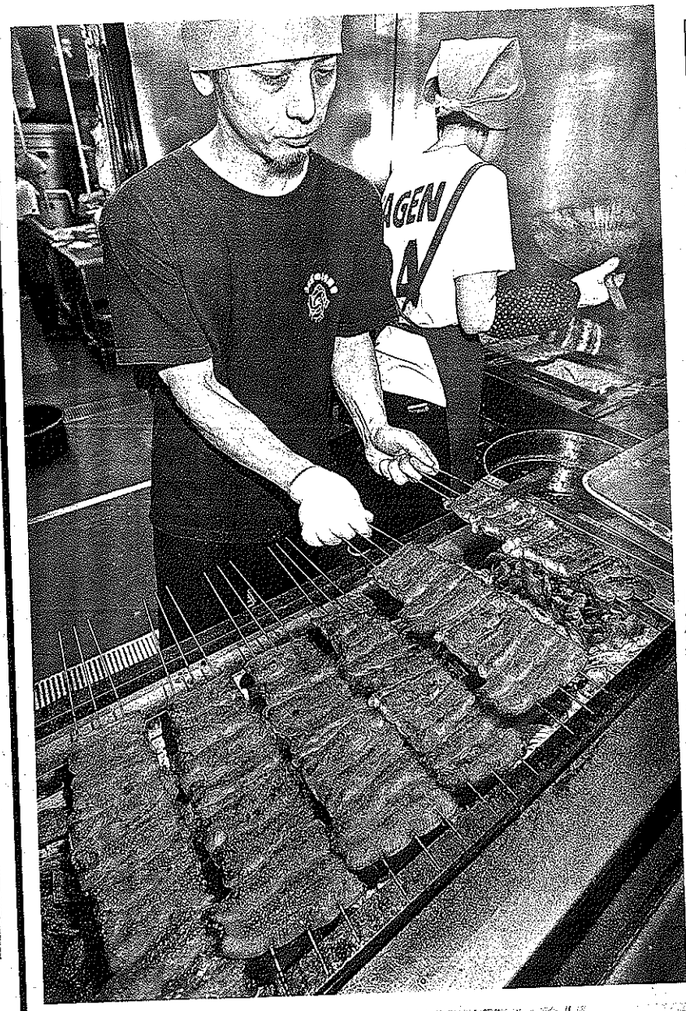
紙面から
北朝鮮 女性のおしゃれ心 6面
漂流「助かると思った」 7面

ウナギやはり食べたい

土用丑の日

県内「絶滅危惧」でも不動の人気

国際自然保護連合（IUCN）が6月にニホンウナギを絶滅危惧種に指定してから、初めて迎えた土用の丑の日の29日。県内各地のウナギ店は朝から準備に追われ、香りが店外にも広がった。資源保護を求める声は高まりつつあるが、夏のスタミナ食としての人気は不動。訪れた消費者からは「絶滅危惧種とは分かっていても、やはり食べたい」との声が聞かれた。



土用丑の日の朝から、炭火で次々と焼き上げられたウナギ（上）、昼食でウナギを楽しむ家族（下）＝29日、岡谷市天竜町

ウナギの消費量が多いとされ、「うなぎのまち」をアピールしている岡谷市。1886（明治元）年創業の「浜丑川魚店」では午前中から調理に追われた。

店によると、絶滅危惧種に指定されたとの報道後、来店客が目立っているといい、29日は例年より多めの約600匹を用意した。販売価格は、上かば焼きが昨年より100円高い1900円。消費増税や仕入れ値の上昇などの影響という。社長の浜守さん(41)は商売の一方で、「ウナギがいなくなり、食べる文化そのものが消えてしまうことは心配だ」とする。

同市神明町の主婦今井厚子さん(66)は「節約して、1人分を減らして分け合ってでも食べたい。夏場の健康のためにウナギは必要」と言い、かば焼きを買い求めていた。

長野市箱清水の「うなぎの宿　住吉」は昨年並みの価格で販売。来店した長野市の飲食店勤務の女性(33)は「年に一度のぜいたくで、毎年楽しみにしている。夏のウナギは食文化で、絶滅危惧種とは分かっていても食べたいものは食べたい」と話していた。

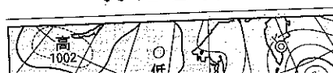
第三者

荒木毅
大石真京
元衆院調
大教授▽小谷
授▽小谷
あ
上田市
さん(34
能なノ
コントロ
ンからの
鍵盤に
も布で
変」。明
から下
くなる

実験室にいると
級生殺害、深い
科学的な解明が
◇
あおむけ漂流
だ強い信念。終
る―。諦めな

伊吹文明衆
前、与野党の
長らと国会内
定数削減を含
改革を検討す
メンバーに平
事や佐々木総
15人を起用す
了承された。
を調整した
初会合を開
明らかにし
他のメン
の小谷真生
菅野稔人、
教の各氏ら
所会頭や市
裁判事など
バーの互選
佐々木氏が
だ。伊吹氏
る政党から

第鳥



信濃毎日新聞
1873年（明治6年）創刊
夕刊
発行所
信濃毎日新聞社
長野本社　〒380-8546
長野市南県町　657番地
電話(026)
受付 236-3000　編集 236-3111
販売 236-3310　広告 236-3333
松本本社　〒399-8711
松本市宮田　2番10号
電話(0263)　編集 25-2151
販売・広告・事業 25-2153
©信濃毎日新聞社2014年

福祉タクシーのご利用をお待ちしております
やさしさと真心でお出掛けをサポートいたします。お気軽にお電話ください。
松代タクシー(株)
本社 026-278-3535
配車センター
026-278-7000

信毎ホームページ
www.shinmai.co.jp
読者センター
026-236-3215
編集応答室
026-236-3111
購読申し込み
0120-81-4341

被爆後の広島 市民に希望の灯

爆心地の聖歌 再現へ

広島流川教会での音楽礼拝の再現に向け、メサイアの練習をする人たち＝13日、広島市中区

「『ハレルヤコーラス』の出だしのところ。自分でも不思議ですが、救われた気持ちになるというかね」。7月中旬。広島市の元教諭、永柴義昭さん(85)はメロディーを口ずさみ、戦後間もなく、聖歌隊でヘンデルの「メサイア」の練習に励んだころを振り返った。

被爆2年後の1947年12月24日、爆心地付近の広島流川教会で開いた「クリスマス音楽礼拝」。焼け跡に希望の灯をともしたこの礼拝を、被爆70年を前にした今年12月、移築した教会で「再現」する取り組みが進んでいる。

◇　◇

メサイアは、キリストの生誕、受難と復活を描いたオラトリオ（聖譚曲）だ。原爆による破壊と、復興へ寄せる思いが重なり合うような曲。当時、吹きさらしの教会から漏れる練習の歌声に引かれ、通り掛かりの市民も集まってきたという。

「希望のようなものが湧いてきた」。空腹も忘れ練習に熱中したという永柴さん。聖歌隊を指揮した故太田司朗氏は、長男を原爆で焼かれ変わり果てた最期をみとった。

12月に本番 世代つなぐ接点に

原爆投下後の焼け野原に立つ広島流川教会＝1945年9月ごろ（川原四儀氏撮影、広島平和記念資料館提供）

永柴さんはある日、太田氏が「原爆で燃えたぎるように渦巻く赤い空」の下にある教会の絵を描いていたのを見たと話す。市民に希望を広げた聖歌の指導に励む一方、癒えぬ傷を抱えた「心の底」を語ることはなかったという。

広島が世界平和のために払った大きな犠牲を無にしてはならない―。こんな祈りから始まった音楽礼拝には約100人が参加。NHKもラジオで生中継したが、関係者の高齢化は進み証言集めは難航、ラジオを聞いた人も見つかっていない。

◇　◇

再現に取り組む「ヒロシマと音楽」委員会の光平有希さん(32)は当時をたどるのは「日に日に難しくなっていく」と話す。

ただ、12月13日の本番までほぼ毎週続く練習は被爆者や若い世代をつなぐ接点になっている。「人生最後の合唱かも」「本番は最後まで立っていられない」。7月中旬の日曜日。中学生も含め約30人での練習中、高齢者らの〝弱音〟が若者らの笑顔を誘っていた。

アルト担当の三戸和子さん(76)は47年ごろ、母や祖母と買い物に来た広島駅前の闇市から港まで一面の焼け野原だったのを覚えていると話す。「あのころ歌っていた人たちには想像を絶する思いがあったと思います」

自らも7歳の時に被爆。再び戦争に突き進むかのように見える内外の情勢に不安が募る。「子や孫を絶対同じ目に遭わせたくない。その思いを伝えたい。ろうそくに火をともすような気持ちで歌っています」

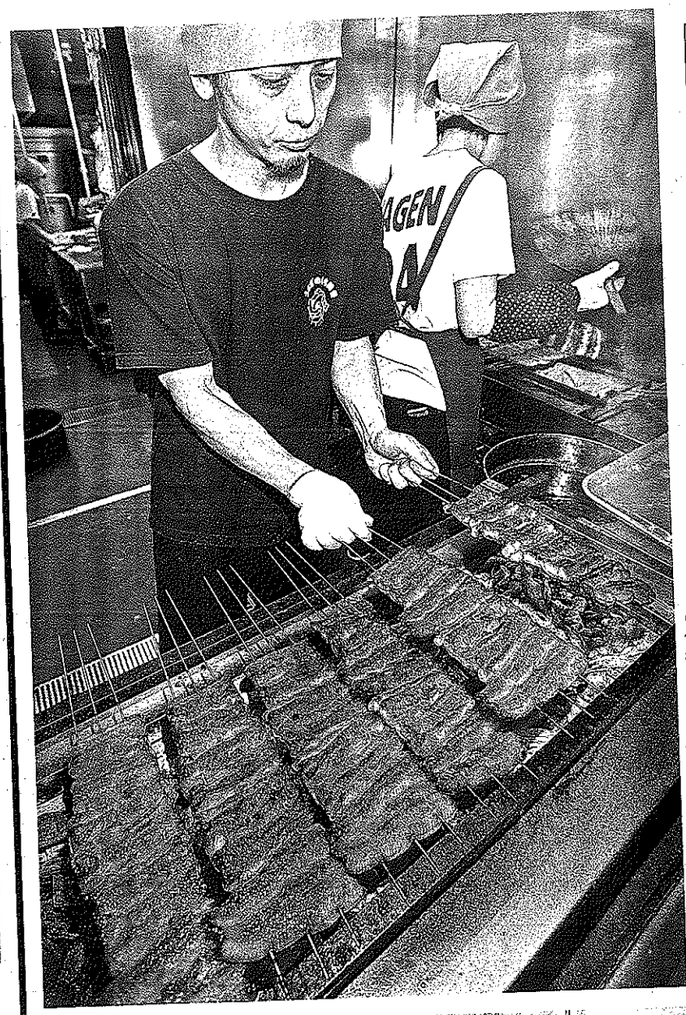
紙面から
北朝鮮 女性のおしゃれ心 6面
漂流「助かると思った」 7面

ウナギやはり食べたい

土用丑の日

県内「絶滅危惧」でも不動の人気

国際自然保護連合（IUCN）が6月にニホンウナギを絶滅危惧種に指定してから、初めて迎えた土用の丑の日の29日。県内各地のウナギ店は朝から準備に追われ、香りが店外にも広がった。資源保護を求める声は高まりつつあるが、夏のスタミナ食としての人気は不動。訪れた消費者からは「絶滅危惧種とは分かっていても、やはり食べたい」との声が聞かれた。



土用丑の日の朝から、炭火で次々と焼き上げられたウナギ（上）、昼食でウナギを楽しむ家族（下）＝29日、岡谷市天竜町

ウナギの消費量が多いとされ、「うなぎのまち」をアピールしている岡谷市。1868（明治元）年創業の「浜丑川魚店」では午前中から調理に追われた。

店によると、絶滅危惧種に指定されたとの報道後、来店客が目立っているといい、29日は例年より多めの約600匹を用意した。販売価格は、上かば焼きが昨年より100円高い1900円。消費増税や仕入れ値の上昇などの影響という。社長の浜守さん(41)は商売の一方で、「ウナギがいなくなり、食べる文化そのものが消えてしまうことは心配だ」とする。

同市神明町の主婦今井厚子さん(66)は「節約して、1人分を減らして分け合ってでも食べたい。夏場の健康のためにウナギは必要」と言い、かば焼きを買い求めていた。

長野市箱清水の「うなぎの宿　住吉」は昨年並みの価格で販売。来店した長野市の飲食店勤務の女性(33)は「年に一度のぜいたくで、毎年楽しみにしている。夏のウナギは食文化で、絶滅危惧種とは分かっていても食べたいものは食べたい」と話していた。

第三者機関 鳥

荒木毅[illegible]頭▽岩崎[illegible]大石真京[illegible]元衆院調[illegible]大教授▽小谷[illegible]授▽[illegible]

伊吹文明[illegible]前、与野党の[illegible]長らと国会内[illegible]定数削減を含[illegible]改革を検討す[illegible]メンバーに平[illegible]事や佐々木[illegible]15人を起用[illegible]了承された[illegible]を調整した[illegible]初会合を開[illegible]明らかにし[illegible]他のメン[illegible]の小谷真生[illegible]菅野稔人、[illegible]教の各氏ら[illegible]所会頭や市[illegible]裁判事な[illegible]バーの互選[illegible]佐々木氏[illegible]だ。伊吹氏[illegible]る政党から[illegible]

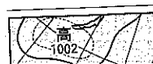
あ

上田市[illegible]さん(34[illegible]能なノー[illegible]コントロ[illegible]ンからの[illegible]鍵盤に[illegible]も布で[illegible]変」。[illegible]から下[illegible]くなる[illegible]

実験室にいる[illegible]級生殺害、深[illegible]科学的な解明が[illegible]

◇　◇

あおむけ漂流[illegible]だ強い信念。[illegible]る―。諦めな[illegible]



長1　第47468号　【明治25年3月15日第三種郵便物認可】　信濃毎日新聞（夕刊）

被爆後の広島 市民に希望の灯

爆心地の聖歌 再現へ

広島流川教会での音楽礼拝の再現に向け、メサイアの練習をする人たち＝13日、広島市中区

「『ハレルヤコーラス』の出だしのところ。自分でも不思議ですが、救われた気持ちになるというかね」。7月中旬。広島市の元教諭、永柴義昭さん(85)はメロディーを口ずさみ、戦後間もなく、聖歌隊でヘンデルの「メサイア」の練習に励んだころを振り返った。

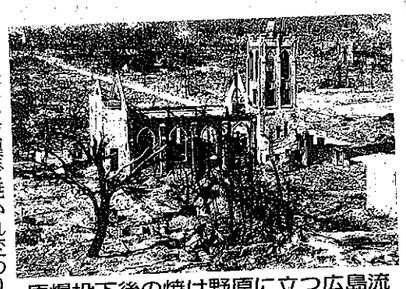
被爆2年後の1947年12月24日、爆心地付近の広島流川教会で開いた「クリスマス音楽礼拝」。焼け跡に希望の灯をともしたこの礼拝を、被爆70年を前にした今年12月、移築した教会で「再現」する取り組みが進んでいる。

◇

メサイアは、キリストの生誕、受難と復活を描いたオラトリオ（聖譚曲）だ。原爆による破壊と、復興へ寄せる思いが重なり合うような曲。当時、吹きさらしの教会から漏れる練習の歌声に引かれ、通り掛かりの市民も集まってきたという。

「希望のようなものが湧いてきた」。空腹も忘れ練習に熱中したという永柴さん。聖歌隊を指揮した故太田司朗氏は、長男を原爆で焼かれ変わり果てた最期をみとった。

12月に本番 世代つなぐ接点に



原爆投下後の焼け野原に立つ広島流川教会＝1945年9月ごろ（川原四儀氏撮影、広島平和記念資料館提供）

永柴さんはある日、太田氏が「原爆で燃えたぎるように渦巻く赤い空」の下にある教会の絵を描いていたのを見たと話す。市民に希望を広げた聖歌の指導に励む一方、癒えぬ傷を抱えた「心の底」を語ることはなかったという。

広島が世界平和のために払った大きな犠牲を無にしてはならない―。こんな祈りから始まった音楽礼拝には約100人が参加。NHKもラジオで生中継したが、関係者の高齢化は進み証言集めは難航、ラジオを聞いた人も見つかっていない。

◇

再現に取り組む「ヒロシマと音楽」委員会の光平有希さん(32)は当時をただるのは「日に日に難しくなっていく」と話す。

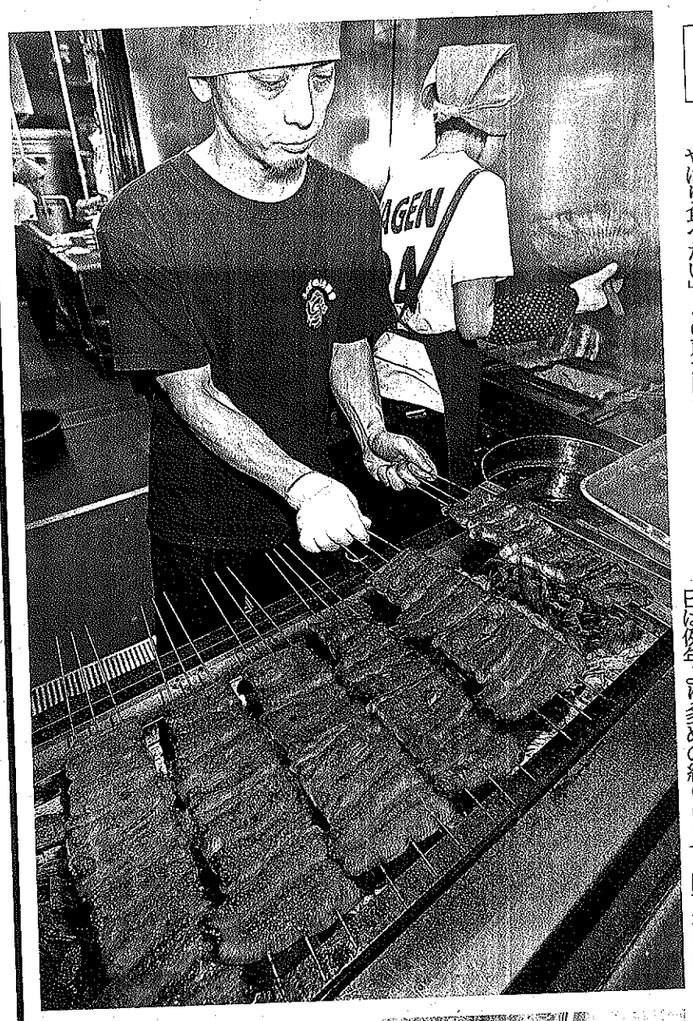
ただ、12月13日の本番までほぼ毎週続く練習は被爆者や若い世代をつなぐ接点になっている。「人生最後の合唱かも」「本番は最後まで立っていられない」。7月中旬の日曜日。中学生も含め約30人での練習中、高齢者らの"弱音"が若者らの笑顔を誘っていた。

アルト担当の三戸和子さん(76)は47年ごろ、母や祖母と買い物に来た広島駅前の闇市から港まで一面の焼け野原だったのを覚えていると話す。「あのころ歌っていた人たちには想像を絶する思いがあったと思います」

自らも7歳の時に被爆。再び戦争に突き進むかのように見える内外の情勢に不安が募る。「子や孫を絶対同じ目に遭わせたくない。その思いを伝えたい。ろうそくに火をともすような気持ちで歌っています」

紙面から
北朝鮮 女性のおしゃれ心 6面
漂流「助かると思った」 7面

ウナギやはり食



土用丑の日の朝から、炭火で次々と焼き上げられたウナギ（上）、昼食でウナギを楽しむ家族（下）＝29日、岡谷市天竜町

費者からは「絶滅危惧種とは分かっていても、やはり食べたい」との声が聞かれた。

推定されたとの報道後客が目立つているといい、29日は例年より多めの約600

かっていても食べたいものは食べたい」と話していた。

配だ」とする。

同市神明町の主婦今井厚子

改革を検討する第三者機関のメンバーに平井伸治鳥取県知事や佐々木毅・元東大学長ら15人を起用する方針を示し、了承された。メンバーの日程を調整した上で、9月初旬に初会合を開きたいとの考えも明らかにした。

他のメンバーはキャスターの小谷真生子、津田塾大教授菅野稔人、慶応大教授曽根泰教の各氏ら。地方の商工会議所会頭や市議会議長、元最高裁判事なども選ばれた。メンバーの互選で決まる座長には佐々木氏が就任する見通しだ。伊吹氏は会談で「あらゆる政党から意見を聞き、バラ

第三者機関メンバー

荒木毅富良野商工会議所会頭▽岩崎美紀子筑波大教授▽大石真京大教授▽大竹邦実・元衆院調査室長▽加藤淳子東大教授▽菅野稔人津田塾大教授▽小谷真生子キャスター▽桜井敬子学習院大教授▽佐々木毅・元東大学長▽佐藤祐文横浜市議会議長▽曽根泰教慶応大教授▽並木泰宗連合政治局長▽平井伸治鳥取県知事▽堀籠幸男・元最高裁判事▽山田孝男毎日新聞社特別編集委員

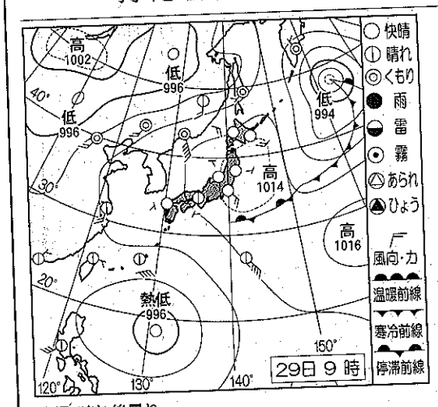
会」。議長の諮問機関として①現行の小選挙区比例代表並立制の評価②議員定数削減③1票の格差是正④選挙制度の抜本改革―を議論する。

答申の期限は区切っていないものの、伊吹氏は「1年以内」との認識を示している。特に定数削減は自民、民主、公明3党が合意した経緯があり、他の課題に先立って答申が出る可能性がある。

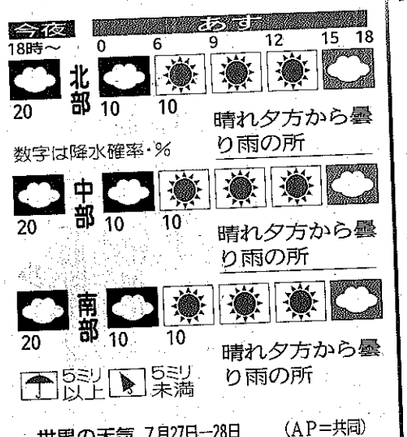
初会合について伊吹氏らは8月前半にも開催する意向だったが、人選が7月末にずれ込んだため9月に先送りされた。

あすの天気

上田市のピアニスト木内貴大さん(34)は作曲の仕事に、高性能なノートパソコンと鍵盤型のコントローラーを使う。パソコンからの放熱で暑くなり、汗が鍵盤に滴り落ちるため、「何度も布で拭かなければならず大変」。明日の県内の天気は夕方から下り坂。「一雨降って涼しくなると仕事がはかどる」



札幌　晴れ後曇り
新潟　晴れ時々曇り
東京　晴れ時々曇り
名古屋　曇り
大阪　晴れ後一時雨
福岡　晴れ後曇り



▲気象衛星12時撮影

けさの気温

（午前6時）

飯山	17.5
長野	19.2（▼3.1）
大町	15.7
上田	18.9
佐久	17.3
軽井沢	15.0（▼3.1）
松本	18.2（▼3.1）
木曽	18.0
伊那	18.9
諏訪	17.9（▼2.8）
飯田	20.0（▼1.4）

あすの予想気温

	最高	最低
長野	32	20
軽井沢	27	15
松本	32	19
諏訪	30	18
飯田	33	19

世界の天気 7月27日―28日

（AP＝共同）

	天気	最高	最低				
ロンドン	雨	27	19	マリンワーク	雨	27	19
パリ	雨	28	16	ニューヨーク	晴	28	18
モスクワ	晴	26	18	ルンド	晴	29	11
ニュデリ	晴	29	22	ホノルル	雨	29	22
ソウル	晴	30	24	バンコク	晴	32	25
北京	晴	36	24				
香港	晴	33	28				
バンコク	雨	30	24				
シンガポール	雨	30	19				
クアラルンプール	雨	30	8				

軍人墓地

る。

M三七・十一・廿四(二十四)
順東鷄冠山

M三七・十二・一九　南満
平野

日清・日露戦争の戦死者で
これはごく少ない。ヒナ段の
たを占めているのはMの明治
く、Sの昭和だった。

S十七・八・廿五　東部
ニア

S十七・十一・廿一　ビ
ク一西端

S十九・三・二　比島ル
目勘定でおよそ500ば
族墓に葬るのではなく、個
して一つをつくり、それを
集める。また軍の位階に関
すべて同じ墓標にしたと
はっきりした意思表示が
た。わが町からこれだけの
国家の命令で戦地へやられ
死をとげた。白々として無
の列が、戦争の愚かさ、理
あますところなく伝えて